

第 19 回植物生命科学セミナー

19th Open Seminar hosted by the Department of Plant Biosciences
Faculty of Agriculture, Iwate University

アブラナ科植物における自家不和合性研究の最近の進歩

－花粉側優劣性発現機構と一側性不和合性－

Recent progress in the research of self-incompatibility in *Brassica* species

-Molecular mechanism of dominance relationship at the pollen side and unilateral incompatibility-

渡辺 正夫 氏

東北大学・大学院生命科学研究科・分子化学生物学専攻

日時： 2019 年 2 月 21 日（木） 16:00～17:30

場所：農学部 2 番講義室（農学部 北講義棟 1 階）

要旨

高等植物のほとんどは両性花を有しており、自分の花粉が自分の雌しべにつきやすい構造をしているが、それを避けるために、雌雄異熟など、色々な仕組みを発達させている。その中でも自家不和合性は、半数の植物種が有していると言われていたが、その分子機構が解明されているのは、いくつかの科に分類される植物種に限定されている。今回のセミナーでは、その分子機構から花粉での優劣性発現機構、一側性不和合性の原理なども概説する。

東北大学の渡辺正夫先生が来盛する機会に研究セミナーをして頂くことにしました。渡辺先生はアブラナ科植物を材料にして、花粉と柱頭の相互作用である自家不和合性の分子機構解明の研究を展開してきました。今回は、専門ではない方にも分かるように、自家不和合性の基礎的なことから、最新の研究についても、お話いただきます。多くの方の参加をお待ちしています。